

第4章 吉野川にみられる生物

ポイント：

河口から汽水域に広がる干潟周辺には、多様な生物が生息・生育しています。全国的に減少傾向にあるシオマネキ、コアジサシ、ルイスハンミョウ等の生息・繁殖場所となっています。また、ヨシ群落、アイアシ群落やウラギク、イセウキヤガラ等の塩生植物がみられます。淡水域では、中・下流域に生息する多くの生物をみることができます。

4 - 1 河川水辺の国勢調査

平成2年から、全国各地の一級河川などで、基礎情報の収集整備を目的とした「河川水辺の国勢調査」を実施しています。調査の結果、吉野川の生物相が明らかになってきました。

生物調査は、「魚介類調査」「底生動物調査」「植物調査」「鳥類調査」「両生類・爬虫類・哺乳類調査」「陸上昆虫類等調査」に分けて実施しています。「魚介類調査」と「底生動物調査」は同じ年に行われているため、各調査は5カ年で一巡します。

調査にあたっては、当該調査に関し専門的知識を有する学識経験者を「河川水辺の国勢調査アドバイザー」として委託し、助言を得ながら実施しています。調査結果は「河川水辺の国勢調査年鑑」などにより公表しています。

ここでは、河川水辺の国勢調査結果を基に、吉野川でみられる生物を紹介しています。

項目別調査地点

調査年度	項目	吉野川									旧吉野川		今切川
		三好大橋	青石橋	脇町潜水橋	阿波麻植橋	川島橋	高瀬橋	第十堰	田宮(河口)	吉野川河口	大津橋上流	大寺橋	白石須
H3.8.13	魚介類												
H3.8.13	底生動物												
H7.12	植物												
H4.9	鳥類												
H5.10	小動物												
H6.11	陸上昆虫類												

河川水辺の国勢調査以外にも、必要に応じて生物調査を実施しています。